



内閣府（防災担当）

日本海溝・千島海溝沿いの巨大地震対策検討 ワーキンググループ（第5回） 議事要旨について

1. 検討会の概要

日 時：令和3年2月26日（金） 12:30～14:30

場 所：中央合同庁舎第8号館3階 災害対策本部会議室

出席者：河田主査、今村委員、井出委員、蝦名委員、片田委員、佐竹委員、鈴木委員※、
瀬尾委員、谷岡委員、中埜委員、根本委員、野田委員、平田委員、福和委員、
松本委員、丸谷委員、青柳統括官、村手審議官、内田審議官 他
※代理出席

2. 議事要旨

事務局から「被害想定について」について、資料に基づいて説明を行うとともに、委員間で議論を行った。委員からの主な意見等は次の通り。

- 被害想定項目について、「人的・物的被害」と「施設等の被害」で分けているが、「施設等の被害」においても「災害関連死」「避難者」等の人的に係る部分があるので、再整理してはどうか。
- 低体温症など、寒冷地特有の影響が、従来の南海トラフ地震や首都直下地震の被害想定と比較してどの程度異なるのか整理いただきたい。
- 低体温症要対処者という考え方について賛同する。この人数を抑えるための対策を検討することが必要。
- 低体温症要対処者の算出にあたり、屋外避難率を東日本大震災時の比率を基に推計することであるが、避難対象となる建物の有無等を考慮など、もう少し精緻に推計することを検討してみてもどうか。
- 災害関連死の項目について、発災直後から避難生活が終わるまで、避難所の環境が整っていない場合には災害関連死のリスクが高まるということも盛り込む必要がある。
- 車避難をどうするかというのは非常に重要な問題である。冬季に徒歩での避難は厳しく、避難を躊躇し遅くなるという可能性もある。車避難の課題等を示し、各自治体での検討として示すことで、より積極的に避難訓練ができるのではないかと。

- 消防運用について、冬季は路面凍結等により消防水利も使いにくく消火活動が困難になると思われるため、積雪寒冷地の困難さを考慮してはどうか。
- 発災後のライフライン等の応援体制について、北海道のように本州から離れている地域に応援に行く際、冬季は積雪の影響等により困難を極めると思われる。ライフライン等の復旧プロセスは、こうした点を考慮しておく必要がある。
- 被害の様相について、例えば積雪寒冷地では輸送遅れによる医療機関の業務低下などによって人的被害につながるといった点まで踏み込んだほうが切迫性も伝わるし、内容にメリハリもつくのではないか。
- 先日の福島県沖地震においては、プラントが全面的に被害を受けたわけではないが電力供給の低下が見られた。今回の地震による電力被害を確認しておく必要がある。
- 避難者はどういう状況に置かれているのか自分では分からないということで、避難者への情報提供が非常に重要である。ここ10年で通信インフラに関する環境が大きく変化していることもあり、情報提供によって避難行動などに関してどういったことが改善できるか考えておくべきではないか。
- 通信への影響について、インターネット回線への影響が非常に重要なため、被害想定で触れる必要があるのではないか。
- 被害想定の項目に遺体処理や保健衛生の話があった。東日本大震災の際も課題であったが、ご遺体の発見や火葬の手続きといった点をスムーズに進めることができればご家族も安心して避難生活をする事ができるため、これらの観点は非常に重要。
- 災害関連死について、定性評価ということではあるが、東日本大震災において福島であれだけ突出した関連死の方が出ているという状況を考えると、対策を促すという意味でも何らかの形でボリューム感を示すことができないか検討していただきたい。
- 超高層マンションがこれだけ増えている状況でもあり、例えば長周期地震動により影響を受ける超高層マンションが関東でどのくらいあるのかボリューム感を示すことができないか検討していただきたい。
- 被害想定に対する対策をしっかりと講じていく必要があり、国、県、自治体、民間、一般市民と多岐な主体に及ぶ。対策を具体的に進めていくため、そのベースとなる財源や法律についても今後どのようにしていくか見据えておく必要がある。
- 被害想定に対する対策を示していくことはもちろん必要だが、対策し切れないという現状もある。被害想定としてこのような形で進めていくとして、自治体の首長の方々が地域の方々にどのように説明し、どのように地域の方々を導いていくべきなのかということについての検討も必要である。

以上